

第325回 香教組中央委員会開催

組合があるから問題が解決した！

個別の人事異動について
はいまのところうまく
いっています。うまくい
かなかつたときの動きを
具体的に教えて欲しい。
(坂出・綾歌支部)

2月に市教委・東部事務所と交渉しました。居住地が変わる異動は2カ月前からの内示を申し入れしていますが、10日前までが多いようです。

香川県の人材確保のためにも、全体の発表を1カ月前にすることを要求しています。(高松支部)

議案2022年度末の人事異動について説明がありました。香教組の各支部は教職員の人事異動の要求の実現に向けて教育事務所および市教委交渉にとりくみました。障害児学校支部は校長交渉を行いました。その結果、おおむね納得のいく人事異動であったとの報告でした。香教組が実施したアンケートでは、依然として希望を聞いておきながら、納得のいかない人事異動があることが浮き彫りになっています。

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
<http://kakyoso.com/>

(寄宿舎指導員部) いきたい。

した 夏休みは そち
の業務を優先せざるを
なくなり、夏休みは仕
か取れませんでした。

第2号議案では、ホスト二口ナでの子どもや職場をとりまく情勢について説明があり、G.I.Aスクール構想、特別支援教育、高学年の教科担任制度、教員不足問題、新たな研修制度、働き方改革などについて、香教組のとりくみについて報告がありました。

2023年8月29日、ふらつと仏生山（高松市仏生山交流センター）で、第325回香教組中央委員会が開かれました。2月の定期大会以降の社会や現場の状況やそれに対するとりくみや課題などについて話し合われました。

あります。そもそも、研修は自分の選択ではないのでしょうか。

コロナ禍で休止してい
た青年部の活動を復活し
ます。様々な行事を計画
しているので参加を呼び
かけたいと思っています。

(青年部)

新型コロナウイルス感
染症に罹患している子どもを別室でテストを行う
という情報が入り、校長交渉を経て、西部事務所交渉をしました。

組合の支部に相談した
からこそ、こういう対応のおかしさが問題になります。組合は大切です。

(三豊・観音寺支部)

支部からの発言の一部です。ポストコロナでの、進まない働き方改革、教育行政の矛盾などが各支部・専門部から報告されました。

花園小学校内にコミュニティセンターを併設するという計画が白紙になりました。議会で質問した議員にも回答無しで唐突に発表されました。実に、不可解です。学校・地域を巻き込んだ事案だけに、陰でこそ決めるのではなく、情報を適切に開示し、納得できる決定をしてほしいと思います。

組合員のいない学校の話です。校長のパワハラ事案が起こり、市教委に訴えましたが、結局、市教委からの指導ということで処理されてしまった。指導程度では、パワハラはなくなりません。また組合員がいないので、訴えた教員がさらにつらい目に合わないか心配です。

なわれてきたことへの憤りであり、それを黙つてやり過ごしてきた自分への怒りだった」と言います▼そして、「それは、何かがおかしいと感じつつ、批判することなく、思考停止し、競争主義社会に子どもを放り込んでいく。戦前の教員と同じではないか」とも：▼暴言・暴力・離席・授業放棄など子どもの荒れが止まりません。低年齢化しています▼個々の子どもが悪いのではなく、子どもを取り巻く環境がそうさせていると捉えるなら、子どもたちのために黙つているわけにはいきません。

思考停止にならない

小黑板

11

三國

四
七

アーティスト

三

を 教

行員考

つが陰

ナニ

九六〇

と下早

ガツツ先生 市長に直訴!

夏の教育講座 講師 久保 敬元校長

2023年8月29日、ふらつと仏生山（高松市仏生山交流センター）で、夏の教育講座（津田教育会館・香教組共催）を行いました。

2021年4月、大阪市市長が突然記者会見で「全面オンライン授業を行う」ことを発表しました。学校への通知は、その3日後でした。この理不尽なことに対する「市民の声」で意見をしましたが、反応はありません。そこで、市長・教育長あてに「提言書」を送りました。その「提言書」がSNSで拡散され、注目の人になりました。この「提言書」に込めた思い、定年退職まで教員として大切にしてきたものについて語っていただきました。



ガツツ！久保 敬元校長

旧「教育基本法」第10条（教育行政）
教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接責任を負つて行われるべきものである。
教育行政は、この自覚のもとに、教育の目的を遂行するに必要な諸条件の整備確立を目標として行わなければならぬ。

2006年改憲 「教育基本法」 第3章 教育行政
(教育行政) 第16条

教育は、不当な支配に服すことなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、教育行政は、国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互協力の下、公正かつ適正に行わなければならぬ。

提言書のタイトルは、「豊かな学校文化を取り戻し、学びあう学校にするために」としました。これは、教育への政治介入を許し、教育の独立性が損なわれてきたことへの憤りであり、それを黙つてやり過ごしてきた自分への怒りでした。

「何のための、誰のための」教育なのか？「学び」とは何か？根本的なことを問い合わせ機会になりました。

2006年、「教育基本法」が改悪されました。さらに、大阪では、2012年「大阪市職員基本条例」「大阪市学校活性化条例」「大阪市教育行政基本条例」が施行され、教職員組合に対する徹底的弾圧もあり、「管理」と「分断」による支配が進みました。

子ども一人の人としての成長に直接関わることこそが教師の仕事であり責任のはずが、かわっていきました。学校が、教育行政の「末端機関」になつていったのです。

この10年：政治が大阪の教育にもたらしたものは、ビジネスモデルの導入でした。エビデンス（説明責任）など数値で表せないものは、意味のないもの、ムダなものにされていきました。

そして、「政治的な介入」↓「切磋琢磨」「教育の自由」↓

CANやDOではなく、BEで子どもを信じることが大切です。子どものゴールを大人が決めて導こうとするのではなく、想像力の欠如、強者の理論だと思います。

子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもを信じることが大切です。子どものゴールを大人が決めて導こうとするのではなく、想像力の欠如、強者の理論だと思います。

子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない、「モノサシ」は要らない、数値では、人間の値打ちや可能性は、「図れない」、「評価」と「承認」は違う、ということです。

1ひとりひとり「ちがう」存在である。

2「かかわり合って」生きている

3「自ら変わる」力を持つている

CANやDOではなく、BEで子どもの本質は変わっています。変わったのは子どもを取り巻く環境なのです。子どもが自己選択・自己決定できない組織になり、トッパダウンで下りてくる大量の業務監視と分断の教育現場になってしまっています。

大量生産・大量消費・経済至上主義、能力主義・成果主義・効率主義で「今だけ、金だけ、自分だけ」が大切にされています。

おとなが楽しくなければ、子どもも楽しいわけがない、おとなが自由にはなれない、と思うわけです。

だから、学校には、もっと隙間の時間と空間が必要です。

・やつてもやらなくていい役に立たなくても構わない

・できなくとも大丈夫

・ゆっくりと待つことができる

・仲間がいるから安心して楽しめる

・大切な時間と空間です。校長時代、コロナ禍で行事が中止になつた代わりに、土曜スペシャル授業として「逃走中」をしました。子どもはもちろんですが、教員が、おおいに楽しんでいたと思いません。また、子どもが発案された「巨大折り鶴づくり」や「幸せの椅子・バラダイスづくり」も書きました。提言のことが広く知れると多くの保護者が応援してくれました。

私は、これまでの実践で大切にしてきたことをお話しします。

権力を考慮することが大切だと思います。誰とも比べない、比べられない

